委託事業実施内容報告書

平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的研修】

受託団体名　財団法人福岡YWCA

1　事業の趣旨・目的

(財)福岡 YWCA は 2004 年から日本語を母語としない小・中・高校生のための学習支援「ハッピースクール」を行っており、日本語教師やボランティアによる日本語指導やサポートを続けている。

日本語ボランティアが日本語教育法を学ぶ機会はあるが、在住外国人を取り巻く入管法や在留資格、多様な問題を知る機会は少ない。また日本語指導や支援を行うにあって、マジョリティである日本人の立場で考えてしまう面がある。

そこで生活者としての外国人の視点生活者としての外国人と共に生きる社会を実現するために、「当事者の視点を持つ」をテーマに体系的で連続した講座を、ボランティア経験者や教室や支援団体で中心的な役割を果たす人達のために提供し、支援に必要なスキルを伸ばす。

2　企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
2010 年 6 月 22 日	福岡 YWCA 会館	白土、中本、 山崎、吉野、 スレイ、奥村、 木村、野崎	・連続講座の目的(ゴール)確認 ・	1.　講座のゴール確認 ※生活者としての外国人の視点に立つ日本語教育・支援に必要なスキルを磨く ※ボランティアによる日本語教室活動及び運営方法を学ぶ ※地域での活動の場作りや行政・教育機関・民間企業、NPO/NGO と共同方法を学ぶ ＊ボランティア経験者を中心とした参加者の参集

				を目指し、市民活動参加につなげていきたい。 2.内容 ・受講者にとって、体系的に学べるように、講義の系統分類が必要。 3.広報 ・各回のチラシ作製の改善→ワークショップ形式で開催する、講師プロフィールや団体説明等、読む側にわかりやすい内容にしていく。 4. その他
10 月 11 日	福岡YWCA会館	中本、山崎、吉野、スレイ、奥村、木村、野崎	講座の後半に向けて	前半の報告 受講生の反応と理解について 後半講師への情報の共有
2011 年 2 月 24 日	福岡 YWCA 会館	白土、中本、山崎、吉野、スレイ、木村、野崎	ふりかえりと今後について	講座報告 アンケートから講座全体のふりかえり 実施成果取りまとめ

【写真】

3 研修講座の内容について

（1） 研修講座名 日本語コーディネーターを目指す日本語ボランティアスキルアップ講座

（2） 研修の目標

・生活者としての外国人の視点に立つ日本語教育、支援に必要なスキルを磨く

・日本語学習者の背景、現状を理解し日本語教室活動及び運営力を養う

・他団体、行政、地域との協働の方法を学び、自らの活動に活かす

（3） 受講者の総数 58 人 （実数）

（日本国 53 人，韓国 2 人，中国 1 人、ニュージーランド 1 人、カンボジア人 1 名）

（4） 開催時間数（回数） 32 時間 （ 7回）

（5） 参加対象者の要件 日本語ボランティア実践者、経験者、在住外国人を対象とした支援活動実践者で日本語ボランティアに関わりがある方

（6） 受講者の募集方法

・福岡市、福岡県の市民センター、公民館、日本語ボランティア教室への案内配布、

・福岡 YWCA の HP へ掲載

申込み方法/E メール、電話、FAX による申込み

（7） 研修会場

ア 講義 福岡 YWCA 会館

イ 実習 福岡 YWCA 会館の日本語教室、多目的カフェ・アニパニ、ディケアハウス椰子の実、福岡市内の市民センターのボランティア日本語教室

（8） 使用した教材・リソース

・「進路ガイダンス資料」ともに生きる街・ふくおか/日本語を母語としない中学生の高校進学を考える会

・「元気になる会議」ちょん せいこ著

・「人やまちが元気になるファシリテーター入門講座」ちょん せいこ著

・ペルー、アルゼンチンの帰国児童の調査結果資料（2010）

・「日本語をまなぼう2」ぎょうせい出版

・「大学では教えてくれない22の大切なこと」西日本新聞社

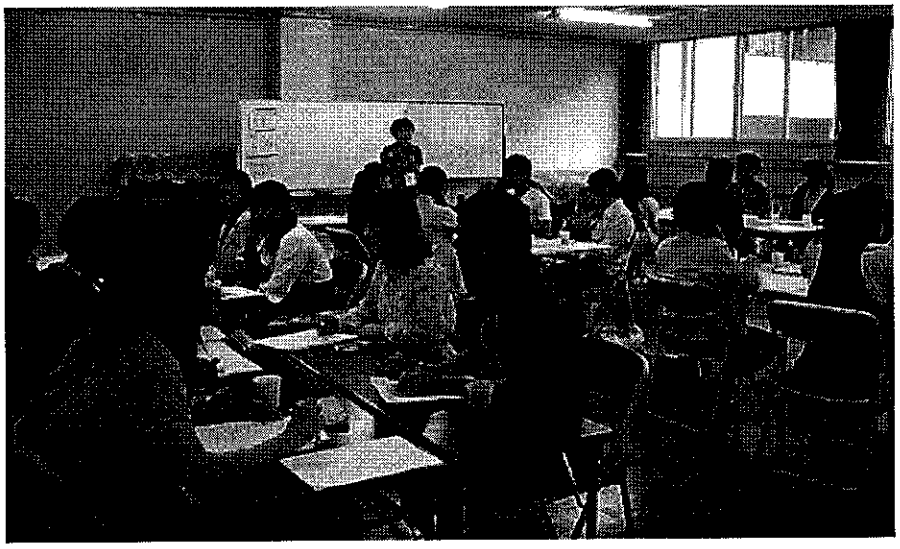
（9） 講座内容

日時	講座名／学習内容	講 師	受講者数
6 月 26 日 10:00～ 13:00	ボランティアって？もう一度考えよう/自分の経験の中でのみ判断し、独断的になっていないか。自分の活動について、客観的に捉えなおす。	ワークショップファシリテーター/福岡県社会教育員/福岡教育大学非常勤講師/佐藤倫子	25 名

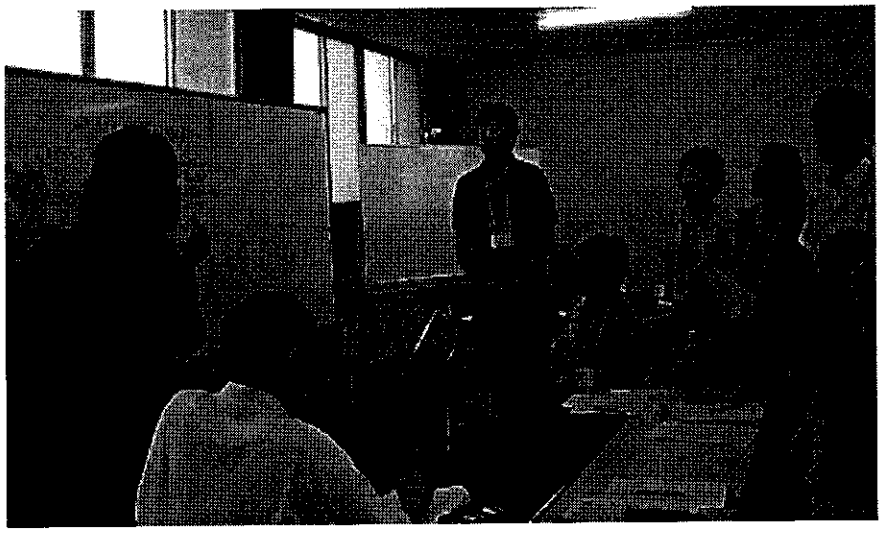
7月11日 10:00～19:00	ボランティア現場でのファシリテーション/意見が反映される話し合いの進め方、活動につながる話し合いの進め方を実践で学ぶ	人まちファシリテーション工房主宰/ ちょん　せいこ	24名
9月11日 13:00～16:00	介護現場の日本語学習について/・グローバル化とケアの共有化外国人ケア労働者の現状を知る ・必要とされる日本語教育について知る ・共に生きるためには何が必要かを考える ・在日フィリピン人介護職の支援について	九州大学法学研究院准教授 小川玲子 (株)インターアジア　ホームヘルパー講座講師、看護師、介護士 田中優子	43名
10月2日 10:00～19:00	マイノリティの子どもの教育ニーズについて/・日本語、日本文化だけに支配されない多文化共生とは。 ・支援事業の問題点 ・ペルー、アルゼンチンへの帰国児童の調査からマイノリティの子どもたちへの必要な学習支援を考える	NPO 多言語教育研究所理事/大東文化大学教授 ﾐｯｸﾒｰﾋﾙ・ｶｲﾗﾝ	35名
10月30日 13:00～17:00	年少者の日本語教育と進路について/ ・学校が子どもたちにとってどんな場であるか ・実践紹介、福岡市日本語指導員による初期指導 ・多文化の子どもたちの進路保障をめざして	福岡市教育委員会派遣指導員/和田　玉己 福岡市進路保障協会/福岡市中学教諭/板山勝樹	35名
11月13日 10:00～13:00	在住外国人に関する法律知識/ ・支援者として知るべき法律知識を学ぶ ・支援者として専門性と無償と有償の線引き―できること、できないこと	NPOグローバルライフサポートセンター/行政書士　山下ゆかり	29名

12 月 16 日 13:00〜17:00	ボランティア現場の課題とこれからのプラン	ワークショップファシリテーター/福岡県社会教育員/福岡教育大学非常勤講師/佐藤倫子	20 人

6月26日 「ボランティアって？もう一度考える」

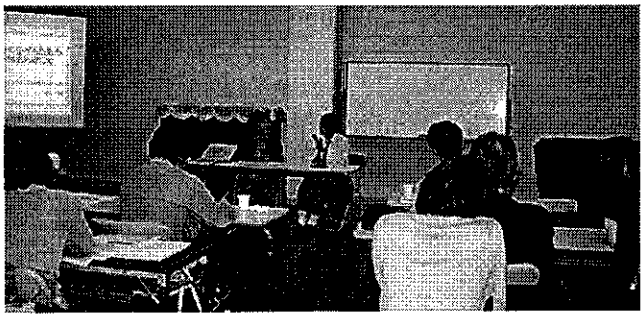


7月11日 ボランティア現場でのファシリテーション



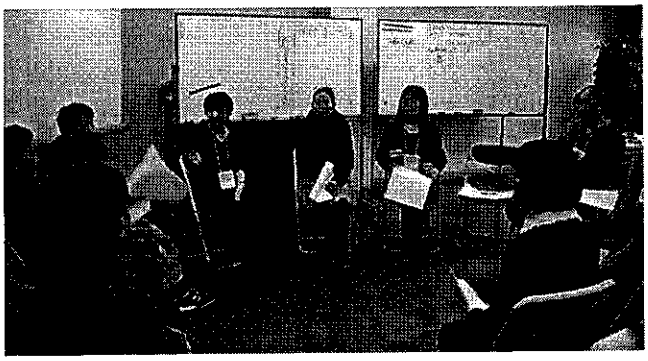
１０月２日　マイノリティの子どもの教育ニーズ

10月30日　年少者の日本語教育と進路について



10月30日　年少者の日本語教育と進路について

12月11日まとめとこれからのプラン



（10）講座の評価

① 受講生に対するアンケート（参加実数　58 名/アンケート実施48名　回答 32 名）

内容について

期待以上（8）　期待通り（14）　普通（6）　期待以下　どちらともいえない（4）

（各回講座の感想　:のべ148回答）

・一人では考えつかないことでも複数で考えるとアイデアが出ることを実感した。通常の活動で例会はあるが連絡事項などで終わり、効果的な話し合いの場をつくるという視点がなかったことに気がついた。

・ホワイトボートミーィングでは、「可視化」、情報の「共有化」の重要性を知った。ボランティア教室の運営や、他の組織との話し合いに活かしたい。

・ホワイトボードの使い方で、話し合いが充実することに、驚いた。今回はまだスキルとして身についていないので、今後現場でしながら身につけていきたいと思う。この次の段階の講座を要望したい。

・定住外国人ゲストの方が経験や意見を発表した後で、「話してよかった」と言われ、自分の経験や意見を言葉にして表すことで、自分が努力してきたことに意味を見出すことができることを感じ、自分が関わっている教室でも、そのような場を設けることを考えている。

・意見の出し方、会議の仕方がわかった。ボランティアの現場では上下関係や命令系統などないので、却って話し合いで感情のもつれがあると、教室の運営に関する事でも、スムーズに行かないことが多い。ひとつのスキルとして使えるようになると教室の効果的な運営に効果的だと思う。

・自分とは異なる現場の話しをきくことができ、現状がわかりました。

・講義だけでなくグループワークがあったおかげで、他の参加者のことばから新たな学び、気づきもあって、とても楽しかったです。

・マイノリティの現状が、自分の知っていた情報と違い、情報を鵜呑みにしていたことに気がついた。

・母国に戻った子どもたちの問題で「母語の喪失」を聞いた。学校教科学習、日本語教育、母語教育と多方面で取り組むべき問題（課題）が多く、今後の学びとネットワークが必要であると思う。

・「外国人支援」から「多文化共生」へとシフトしていくために、しんどくても多言語化へ取り組む必要があることを再確認した。

・行政がしなければいけないことをボランティア任せにしている面を、感じた。（介護士、看護師の受け入れの日本語教育や子どもの日本語教育について）

・子どもは早く日本語が話せるようになるので、周囲も安心するが実は授業が理解できていないことがあり、学校の中の多文化の子どもたちへのサポートを急がなければならないと思う。日本語教師や NGO だけでは、学校の中は変わらないので教育委員会や市への働き掛けが重要。

・「ボランティア」としての支援の線引きは、どこなのか、自分たちの動きのなかで考え続けたい。

・年少者や介護士、看護師の受け入れについての日本語教育の体制が、まだまだ整っていないことを改めて感じた。

・各講座おおむね満足していますが、もっと時間が必要な内容もありました。

・講師のレクチャーの後、現場の外国人の方の話しを聞き、その後グループワーク、発表、全体で意見交換など、具体的に考えることができ、良かった。
・現実に起こっていることを、経験者や実際に関わっている講師の方に、話していただき、理解しやすかった。講師の方々の内容がわかりやすい言葉や口調でよかった。質問もしやすく、きちんと答えていただいて信頼できた。　　（他は同様の内容のため省略）

② 実施主体からの研修内容結果評価

前年度（平成21年度）の講座のふりかえりから、ボランティアが日本語指導や支援活動を行う時に、「当事者である生活者としての外国人の視点を持つ」ことが、度々忘れ去られていることがわかった。そのことを踏まえて、「当事者視点を持つ」ことを講座の大きなテーマとした。各回の感想や講座中の意見などから、「当事者の視点をもつ」ことの重要性の理解、活動への取り入れには効果があったと言える。

毎回、内容に沿う生活者としての外国人を講師補助者として協力を願い、講師と相談のうえ経験や意見の発表、グループワーク時のアドバイスなど適した役割を担っていただいた。受講生は、講師の講義と現場の「生の声」を聞き、当事者の抱える問題や、日本語教育指導や支援の方法について考えるべき点に気がついたという意見が多かった。

また、もう一つの講座の目的「日本語学習者の背景、現状を理解し日本語教室活動及び運営力を養う」についても同様に、各回の感想や講座中の意見などから効果があったと捉えている。

各回、実際に現場で生活者としての外国人に接している講師の内容は、受講生への説明も現実の活動に即したものであり質問にも的確に答えていただき、受講生の満足度が高かった。ボランティア教室や支援活動の運営の中心的な存在である受講生に不可欠なファシリテーション力も、前年度に引き続き講座に組み入れた。活動の運営に問題や力不足を感じている受講生も多く、話し合い（会議）の進め方で活動や組織が変ることに関心が高く、もっと（講座）時間がほしいとの感想が多かった。

最後の回は出席者が少なかった。年末という時期的なものと、連続講座の期間の長さ、「まとめ」として自分たちの今後の活動プランについてだったため、案内の説明不足、日時の設定は反省点である。

全体を通して、毎回さまざまな日本語指導の現場の実情や、当事者の意見を知り理解する手掛かりとなる内容であった。一方、具体的なグループワークや話し合いの方法を学ぶことができ、関心も満足度も高かった。ボランティアに必要な「当事者の視点をもつ」ことへの理解が、本年度の講座では伝えられた。福岡市内には50を超す日本語ボランティア教室があり、多くの日本語指導者が関わっている。日本語指導者が当事者の視点を持つ続けるための事

業に、団体として今後も貢献したいと考えている。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

・年少者の学習サポート「ハッピースクール」の発展
時間帯の拡大、サテライトの設置

・年少者のための日本語指導者養成講座の実施
対象：福岡市の小中学校の取り出し日本語授業の講師
ボランティアで年少者を担当する日本語指導者

・日本語を母語としない日本語指導者養成講座の実施

・18歳～20代後半の定住外国人の居場所つくり

（11） 事業の成果

① 他事業との連携

ボランティア教室とのネットワーク
進路保障協会、ともに生きる街・ふくおかの「進路ガイダンス」への協力

② 研修後の人材活用

市内のボランティア教室への紹介
福岡市教育委員会への派遣員（日本語指導）への登録紹介
介護現場での日本語学習者への教師紹介
移住女性支援団体と連携し、日本語指導者紹介
福岡 YWCA が行う日本語支援事業への登録

（12） 今後の課題

前年度の講座のふりかえりから「当事者の視点をもつ」ことを大きなテーマとして、様々な日本語教育の現場の声を交えた連続講座を実施した。受講生のアンケートや反応から、受講生に自己満足ではない支援、学習者が求める日本語指導について考えることを提案できた。2年間にわたり、このような講座を通じて生活者としての外国人のための日本語教育に寄与できたことを嬉しく思っている。

しかし本講座の受講生ではないが、「ボランティアだからほどほどでいい」「ただ美しい日本語を教えたいだけ、個人的なことには興味ない」「ひまだから・・・」という声もきく。どのような立場で、どのような方法で日本語ボランティアとして関わるのか、個人により様々であり、「これが、ボランティアとしてあるべき姿」と断定する事はできないが、福岡 YWCA では多文化共生への理解、いろいろな背景の市民が共に生きることを肯定し、「日本語」「日本文化」が他の言語文化より優れているからではなく、日本で自分の人生を主体的に生きるための手段として身につけるための支援と捉えて、活動や講座を実施している。より多くの方に受講していただき、意見を交わしながら同じところを目指したいが、関心を持っていただけないことも多い。

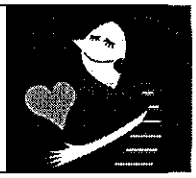
そのための広報や他団体とのネットワークの構築が今後の課題である。

また、本年度の講座を通じ、年少者の日本語教育に関心が高いこと、必要性が高いことがあらためて見えてきた。福岡市内のボランティア教室でも年少者が増えており、ボランティア教室の日本語指導者が指導法など学びの場を求めている声が聞かれる。福岡市教育委員会の小中学校における日本語特別指導員についても、学校における日本語指導についての講座は年に2回程度と多くはない。

福岡 YWCA では、2004年から子どもの日本語と学習のサポートを実施している。この実績をもとに年少者の日本語教育のための講座と、子どもの学習の場の充実を図り、生活者としての外国人家族のために貢献したいと考えている。

福岡YWCA

日本語コーディネーターを目指す
日本語ボランティア　スキルアップ講座



皆さんの周りには、違う言葉、文化、歴史を持った人たちがたくさん暮すようになりました。何か力になりたいと日本語を教えたり、他にも何かサポートしている人、けれど一緒に活動しているのになんとなくうまくいかない、他の組織とどうネットワークすればいいのかわからない、やってみたけどうまくいかなかった。そんな思いの人は、一緒に考えて見ませんか？
目の前の学習者のこと、どれだけ知っていますか？　目の前の学習者は、何を求めてますか？
“コミュニケーション”について考え、自分のもつ日本語指導の力で誰かと支えあえたら、自分も周囲も、楽しくなる！あなたの参加を待ってます！

対　象：在住外国人のための日本語指導に関わっている方
日　時：連続7回　２０１０年6月２６日～１２月１１日（いずれもタイトルは仮題）

第１回　2010年6月26日（土）10時～１３時
　＊はじめましてフォーラム　＊ボランティアって？もう一度考えよう
　講師：佐藤　倫子さん　（福岡教育大学非常勤講師/開発教育ファシリテーター）
第２回　7月11日（日）１０時～１９時
　＊ボランティア活動でのファシリテーター＊みんなが参加できる話し合いの進め方
　講師：ちょん　せいこさん（人まちファシリテーション工房主宰）
第3回　9月11日（土）１３時～１６時　＊介護の現場から（仮題）
　講師：小川　玲子さん（九州大学アジア総合政策センター准教授）
　　田中　優子さん（看護学校元教師・看護師・介護士・ホームヘルパー講座講師）
第4回１０月2日(土)１０時～１９時　＊マイノリティの子どもの教育ニーズについて
　講師：ミックメーヒル　カイランさん（大東文化大学教授/NPO多言語教育研究所理事長）
第5回１０月３０日(土)１３時から１７時＊多文化の子どもの日本語学習・進路について
　講師：和田　玉己さん（日本語教師　ともに生きる会）
第6回１１月１３日(土)１３時３０分～１６時　＊在住外国人に関する法律知識
　講師：山下ゆかりさん（行政書士/NPOグローバルライフサポートセンター）
第7回　12月11日（土）１３時～１７時　ボランティア現場の課題とこれから/まとめ
　講師：佐藤倫子さん

参加費：無料/定　員：２５名/　　後援/福岡市教育委員会
申込：ＹＷＣＡにメール・ＦＡＸ・ＴＥＬで開催日の３日前までにお申し込みください（裏面参照）
主催・開催場所：（財）福岡ＹＷＣＡ
　〒810-0073　福岡市中央区舞鶴2-8-15　e-mail:fukuoka@fukuoka.ywca.or.jp
　TEL　092-741-9251＊FAX　092-712-2515　（休館/日・月・祝）
★この事業は、文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業の委嘱事業です。

「困った時に」シート

相談・こまっていること

手続き
在留資格
パスポート
証明書
国籍（取得やトラブル）

- 入国管理局①（インフォメーションセンター）
- 各大使館②
- 市役所の外国人窓口③
- 国際交流協会
- 法テラス④ 無料相談
- 弁護士
- 行政書士

仕事・労働
はたらきたい
給料のこと
ハウスメントのこと
ケガをした
クビになった
資格をとりたい

- ハローワーク（公共職業安定所）⑤
- 労働基準監督署⑥
- 外国人労働者相談コーナー⑦
- 外国人雇用サービスセンター⑧
- 労働福祉事務所⑨
- （民間）相談窓口⑩
  - ユニオン
  - 北九州

教育・学校
日本語を習いたい
進学のこと
就職のこと
いじめのこと（子どものこと）
先生、保護者のこと
奨学金

- 各教育委員会
- 各国際交流
- 留学生センター
- 日本語ネットワーク
- 福岡YWCA ハッピースタイル

生活・家庭
彼氏、彼女とのこと
結婚
離婚、（親権）
暴力（D・V）
子ども
家族のこと
性暴力
ひきこもり

- 家庭裁判所
- 法テラス
- 女性相談窓口 福岡 北九州
- ホットライン⑪
  - アミカスDVホットライン
  - 女性の人権ホットライン
  - アジア女性センター（民間）
- 児童相談所
- こども総合相談センター（えがお館）
- 子どもの人権110番
- チャイルドライン（民間）
- 精神保健福祉センター

健康
病気
妊娠・出産
入院
介護
保険のこと
予防接種
エイズ

- ことば通訳
- 各国際交流、女性グローバルライフサポート（民間）
- 各市町村窓口
- 医療情報センター
- 精神保健福祉センター
- 福岡市母子福祉センター

その他の相談
交通事故
近隣トラブル
借金、サギ
住むところ
保証人
賦産
免許のこと

- 警察
- 生活相談窓口
- 各市町村窓口
- 留学生センター
- 国際交流協会
- 消費生活センター
- 法務局
- ひこばえの会（民間）

死にたい!!
- 精神保健福祉センター
- いのちの電話

- 各組織の担当者レベルでの紹介ができるのがベスト
- たらい回しにならない工夫
- 個人に渡す

ボランティアスキルアップ講座
まとめの時間での
ワークシート

※ ただし窓口によっては多言語対応できないところもあります。